

Q&A

Q. レジデント修了後の就職先は？

A. これまでのほとんどのレジデント修了生が当院薬剤部の特定有期職員として入職しました。

Q. 認定や専門薬剤師の取得に支援は？

A. 当薬剤部では認定や専門薬剤師の取得を推奨していますので、取得に必要な申請費用や講習参加費用等を支援しています。

Q. レジデントに求められる人物像は？

A. 患者のために薬剤師として何が出来るかを自身で考え、自主的に行動できる人が望まれます。また、自己研鑽のモチベーションの高さも大切です。

Q. レジデント期間中の研究はどのように行うの？

A. テーマは自身で考えたものや薬剤部職員から提案されたもので行います。研究メンターが計画から実施、解析、発表までをサポートします。

先輩からのメッセージ



2022年レジデント修了
当院勤務年数 1年目

高橋 慶

研修1年目は様々な部署で経験を積むことができました。2年目に私は糖尿病腎臓病専門コースを選択し、糖尿病内分泌内科病棟やNEST（当院の栄養サポートチーム）での研修を経て、現在は日本糖尿病療養指導士（CDEJ）やNST専門療法士の取得を目標に日々業務・教育・研究に取り組んでいます。



2019年レジデント修了
当院勤務年数 4年目
糖尿病療養指導士

菅生 有夏

レジデントプログラムでは幅広い業務を経験し、各部署の繋がりを感じながら病院薬剤師の業務全般を深く学ぶことができました。中でも私は糖尿病カンファレンスへの参加で糖尿病療養支援に興味を持ち、現在は糖尿病療養指導士の資格を取得し、糖尿病患者の療養支援に励んでいます。

2024年度レジデント募集要項

採用予定人数	2～3名（任期付き常勤職員として採用）		
応募資格	薬剤師免許を有する者又は薬剤師免許取得見込みの者		
採用試験	2023年4月15日（土）	応募締切	2023年4月4日（火）必着
見学会	2023年2月17日（金）14:00～ 2023年3月9日（木）14:00～		
プログラム詳細	スケジュール詳細、レジデントプログラムの概要、Kobe-PRSについては神戸大学医学部附属病院薬剤部オリジナルホームページをご確認ください。下のQRコードから読み取ることもできます。応募前には必ずご確認ください。 http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/yakuzai/		
問い合わせ先	神戸大学医学部附属病院薬剤部（担当：大村） 〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-2 TEL: 078-382-5111		
応募先	神戸大学医学部総務課人事係（担当：松本） 〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-1		



神戸大学医学部附属病院薬剤部
オリジナルホームページ



神戸大学医学部附属病院薬剤部
Facebookページ



神戸大学医学部附属病院薬剤部
Department of Pharmacy, Kobe University Hospital

薬剤師レジデントプログラム





薬剤部の概要

スタッフ

薬剤師 定員79名
 神戸大学薬剤師レジデント 3名
 神戸薬科大学薬剤師レジデント 2名
 事務補佐員・技能補佐員 7名
 派遣職員 2名
 委託職員 3名
 (2022年11月1日現在)

認定・専門薬剤師

- 日本医療薬学会 / 医療薬学指導薬剤師
- 日本医療薬学会 / 医療薬学専門薬剤師
- 日本医療薬学会 / がん専門薬剤師
- 日本医療薬学会 / 薬物療法専門薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / 病院薬学認定薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / がん薬物療法認定薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / がん薬物療法認定薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / 感染制御専門薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / 感染制御認定薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / HIV感染症薬物療法認定薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
- 日本病院薬剤師会 / 認定指導薬剤師
- 日本臨床腫瘍薬学会 / 外来がん治療認定薬剤師
- 日本臨床薬理学会 / 指導薬剤師
- 日本臨床薬理学会 / 認定薬剤師
- 日本臨床薬理学会 / 認定CRC (薬剤師)
- 日本糖尿病療養指導士 (薬剤師)
- 日本薬剤師研修センター / 認定実務実習指導薬剤師
- 日本薬剤師研修センター / 小児薬物療法認定薬剤師
- 日本化学療法学会 / 抗菌化学療法認定薬剤師
- 日本医薬品情報学会 / 医薬品情報専門薬剤師
- 日本腎臓病薬物療法学会 / 腎臓病薬物療法専門薬剤師
- 日本緩和医療薬学会 / 緩和医療認定薬剤師
- 日本緩和医療薬学会 / 緩和医療暫定指導薬剤師
- 日本リウマチ財団 / リウマチ登録薬剤師
- ICD制度協議会 / インфекションコントロールドクター
- 日本アンチ・ドーピング機構 / 公認スポーツファーマシスト
- 日本静脈経腸栄養学会 / 栄養サポートチーム専門療法士
- 日本老年薬学会 / 老年薬学指導薬剤師
- 日本老年薬学会 / 老年薬学認定薬剤師
- 日本薬剤師研修センター / 認定薬剤師
- 日本臨床試験学会 / 認定がん臨床研究専門職

のべ116名

神戸大学医学部附属病院薬剤部の4つのミッション

患者中心のチーム医療を実践する

- ✓ 薬剤師業務を地道に行う
- ✓ 業務の効率化と新規業務の開発
- ✓ 安全性と経済性のバランス感覚を養う



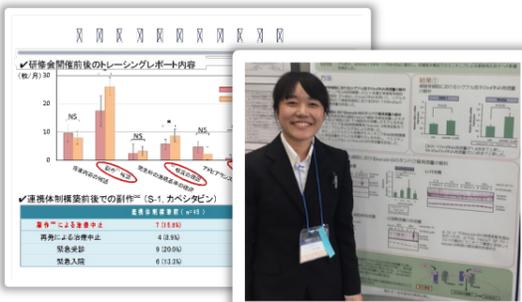
10年後の医療を牽引する薬剤師を育成する

- ✓ 薬学部卒前教育への貢献
- ✓ 初期レジデント制度の充実
- ✓ 認定・専門薬剤師及び学位取得の支援



明日の薬物治療に変化をもたらす

- ✓ 薬剤業務の科学的評価
- ✓ 計画的な学会発表
- ✓ 研究成果の論文化



兵庫県の医療に貢献する

- ✓ 認定施設として研修生の積極的受入れ
- ✓ 地域での勉強会や活動の推進
- ✓ 人材確保と人材交流



レジデントプログラム

プログラムは原則1年ですが、希望に応じて2年のコースを選択することができます。

医療薬学一般コース (1年目)

「薬剤師としての基本的な臨床能力と専門性を修得すること」を目的として、薬剤部内での各部署をローテーションします。また、早期から病棟研修も行い、入院患者の持参薬確認、服薬指導、薬物治療管理、退院時指導などを担当するとともに、各診療科の症例検討会やカンファレンスに参加してもらいます。さらに教育や研究活動も従事してもらいます。

医療薬学専門コース (2年目)

「より専門性の高い臨床薬剤師の業務を経験することで質の高いチーム医療を実践できる高度な知識ならびに技能を修得すること」を目的として、各専門コース(がん、薬物療法、糖尿病・腎臓病、感染症、小児・妊婦・授乳婦)を選択し、関連の病棟業務およびチーム医療に従事してもらいます。また、臨床研究の成果をまとめ、発表・報告を行います。

薬剤師レジデント前期コース (1年目)

到達目標: 標準的な薬物療法に関する提案・介入・評価を行うことができる

業務	スケジュール (17:15までに全業務を終える)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		午前 午後 チーム医療 症例検討会 スキルアップセミナー	調剤 / 管理	調剤 / 管理 / 製剤 / 化療	DI / TDM / OPE / ICU	調剤 / 管理 / 製剤 / 化療	病棟① (ピンク病棟)	病棟② (青病棟)	病棟③ (黄病棟)	病棟④	DM教室	緩和 / NEST / ICT (1ヶ月ずつ)	
教育	実務実習指導 PBL 臨床医学基本実習 IPW	薬学実務実習指導											
研究	臨床研究 発表	研究テーマの選定			計画書作成			データ収集・解析					
評価	レジデントレポート 症例レポート 成果発表会 Kobe-PRS 研究評価 業務評価 全体評価	1月1回	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)	1月1回 (月1例以上)

ここがPOINT!!



- ✓ 1年でほぼ全部署を経験
- ✓ 2ヵ月目から11ヵ月間に渡り病棟業務に従事
- ✓ 到達度評価 (Kobe-PRS) によるスキルアップ

- ✓ 充実のサポート体制
研修メンター
研究メンター
プリセプター
- ✓ 充実の部内セミナー
スキルアップセミナー
症例検討会

- ✓ 疾患や薬効に関わる研究のみならず、薬剤部としての取り組みに関するテーマも

- ✓ 薬学部の事前実習や実務実習
- ✓ 医学部教育にも従事
- ✓ 多職種協働のグループワークにも参加

Kobe-PRSとは?

薬剤部各部署で設定した学習成果に基づく3段階ルーブリック表です。この評価表の適用により業務に必要な知識と技能を効率的に習得することができます。

Kobe-PRS 研修部署名: 調剤室・薬品管理室 研修目標: 適切かつ安全な薬物治療が実施されるように調剤を行うことができる

観点	レベル		
	3 (理想的な薬剤師レベル)	2 (研修終了時に期待されるレベル)	1 (研修開始2週間程度かけて到達するレベル)
内服・外用・注射薬の処方監査・疑義照会	必要に応じてカルテから患者背景や病歴等の情報を収集し、それらを考慮した上で、処方内容が適切であるかどうかを評価し、疑義照会を含め適切な処方提案ができる。	処方箋の基本的な記載事項が適切であるかどうかを判断し、不備があった際に疑義照会を行うことができる。	処方箋の基本的な記載事項が適切であるかどうかを判断することができる。
内服・外用・注射薬の処方箋に基づく調剤	-	一包化、錠剤の粉砕、剤形選択、配合変化の回避、安定性の確保等、工夫を必要とする調剤について、添付文書、インタビューフォーム、各種書籍等を用いて適切に判断し、調	計数、計量調剤(散剤、水剤、外用剤)を内服に沿って正確に行うことができる。